

テーマ：光

対象年齢：5歳児

荏原西保育園(品川区)

テーマの設定理由：

園庭で遊んでいる際に太陽の光から自分たちの影や植物の影が映し出されている様子を子どもたちが面白いと感じている姿があった。そこから昨年のテーマである色と組み合わせ、より興味や関心につなげていけると良いと感じたため、今年度は「光」をテーマに設定した



活動の内容①：万華鏡づくり、紙コップ、アルミホイルを室内で見てみる



用意した環境：

カラーセロファン、紙コップ、アルミホイル、ライト、ブッカーフィルム(あらかじめセロファンを貼るところに紙コップの大きさに合わせた丸を描いておく)

活動のねらい：

- ・セロファンの色合いを考えたり、アルミホイルをつけることでの変化を楽しんだりしながら万華鏡を作る
- ・作った万華鏡を光に当てると、どのように映るかを実験し色の変化を楽しむ

子どもたちの様子：「万華鏡って何だろう？」とイメージがわからない中、万華鏡を作るための材料を用意し、保育者が作り方を実演していくと、「やりたい！」と興味深くその様子を見つめていた子どもたち。実際に手に取り、作り始めると「何色がいいかな？」とセロファンの色を考えながら貼っていく姿があった。紙コップにアルミホイルを入れる時には、アルミホイルをのぞき込んで「光っているね！」「〇〇が見える！」と光が反射する様子も楽しんでた。戸外で実際に太陽の光に当ててみると、地面に移った様々な色の光を見て喜んでた。

保育者の振り返りと気づき：今回の万華鏡はカラーセロファンで作ったが、自然光では光が弱いと反射しにくい状況があったので、ライトを使ってみると自然光よりは色がはっきりと映って良かった。今後はアルミホイルではなく、ミラーシートを使った万華鏡も作成していきたい。

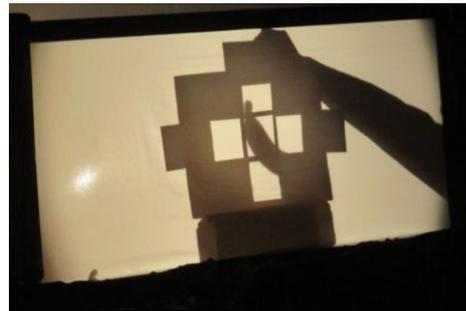
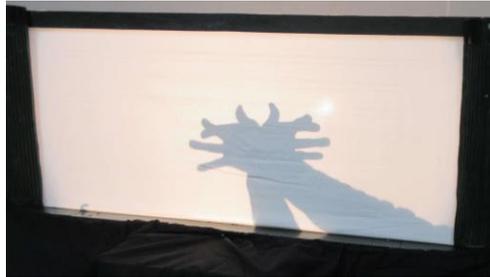
活動の内容②： シャドーシアターを見る・影絵遊び

用意した環境：

広いホールを使用する
暗幕、ライト、音楽、スクリーンを
シャドーシアターで準備



「すごい！どうなっ
ているんだろう？」



「カニになったよ！」



活動のねらい：

- ・光を使ってどんなことができるのかを知る
- ・光を使った影の様子を観察しながら、真似て表現することを楽しむ

子どもたちの様子：シアターが始まると自然と笑顔になりながらも、光の動く様子、変わっていく不思議さに息を飲み見入っていた。大きく場面が変わるところでは光の変化に驚き、声をあげていた。実際に物が光に当たるとどのように映るのか、シアターが終了後には教わった影遊びのやり方を自分でスクリーンに映して試して遊び、上手く形ができると喜び、その後も繰り返し形を作ったり、影を動かしたりしていた。

保育者の振り返りと気づき：

光に色を付けることや自分の体、道具を使い影で様々な生き物、場面を表現できることを知った。また、シャドーシアターを見たことで、5歳児として自分たちが表現したことを周りに見せてあげたい気持ちへ、つながっていたことに成長を感じた。スクリーンなどの場を用意し自分たちも楽しみながら披露できる場を設定したり、色のついた光を用いたりした活動も行っていきたい。

活動の内容③：リトルプラネットへ行く

用意した環境：

園外保育でリトルプラネットに行く

自分の影と映している光が合わさっている！
「あっ、何か出てきたよ！」

砂をすくうと絵が変わるね！



活動のねらい：

- 光に色が付いたり、重なり合ったりすると、様々な物がどのように見えるかを知る
- 触ったり、試したりして光の変化を楽しむ

子どもたちの様子：どんな場所なのか、どういう遊びがあるのか、行ったことがある子、初めての子と、それぞれ楽しみにする姿がある。暗い空間の中にあふれる様々な光の中で、それぞれの子どもたちが興味をもち、触ってみたり、覗いてみたりして繰り返し試す姿があった。光の変化などに何度も触れ、時間を忘れるほど楽しんでた。また、腕につけているバンドでポイントをためるシステムがさらに子どもたちに意欲を高めていた。

保育者の振り返りと気づき：

これまでのシャドーシアター鑑賞や影絵遊びの経験に加え、光に色が付いたことで、よりイメージが広がっていった。また、投影される絵が動く様子には、どのように動いているのか繰り返し触れて試すなど、より興味深く対象とかかわる姿につながっていた。今後、保育の中でこの経験が生かせないかと保育者同士で話し合い、つなげていきたい。

活動事例④：光と影遊び

こんな色にしたらどうだろう？



用意した環境：

広いホールを使用する
暗幕、ライト、音楽、スクリーン、投影機器
背景作成(紙、マジック、180色の色鉛筆)

活動のねらい：

- ・スクリーンを使って自分の描いた絵がどのように映るかを知る
- ・自分の描いた絵を使って、劇遊びを楽しむ

子どもたちの様子：発表会で使用する背景をイメージしながら色鉛筆などを使って塗った。色鉛筆は180色のものを用意すると、同系色を集め、絶妙な色合いを出すために何色も重ねながら塗る姿があった。出来上がった絵をスクリーンに投影すると、描いた絵がきれいに映し出される様子を見て、歓声を挙げていた。A4サイズの紙からスクリーンいっぱい絵が大きくなる様子にも驚いていた。近づけたり、離れたりすることでサイズが変わることを知ると、自分でも手を近づけたり、離したりして確かめ「本当だ!」「大きくなった!」と話す姿があった。

保育者の振り返りと気づき：

疑問に思っていたことを実際にやってみることで「そうだったのか!」と気付く事ができ、さらに「次はこうしてみたい!」「こうしたらどうなるのかな?」と自分たちで挑戦したり、試したりする事にもつながっていくと感じた。子どもたちが感じた疑問や気づきを保育者も一緒になって考え、やり取りをしながら答えに近づけるようにしていくことで、子どもたちや保育者自身の成長につながると感じた。